

市、公社、協議会が連携しながら、JAを主体にプランの話合いを実施し、  
農地集積を推進(岩手県<sup>はなまきし</sup>花巻市<sup>みやのめ</sup>宮野目地区)

話合いの工夫

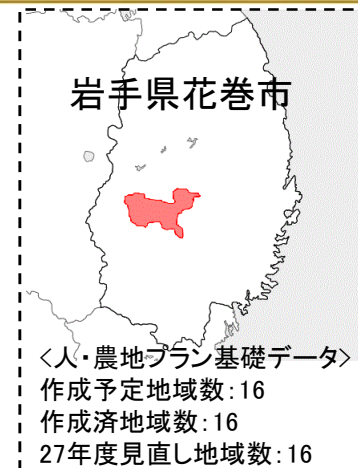
機構の活用

## 地域の概要

JAの支店単位をエリアとして、耕地面積799ha、農家数303戸、農家の平均年齢65歳、水稻中心の個別経営と集落営農が中心で、**高齢化により離農希望者が増加**していた。

## 取組の成果

- 担い手への集積率:[プラン作成時(H24)] 88%(708ha)⇒[現在(H28)] 93%(750ha)
- 中心経営体として、5集落営農組織を新たに集落営農法人として位置づけ
- 機構活用の意向確認情報をプランに反映し、約580haの農地を公社がマッチング



## 取組のポイント

### 市、公社、協議会が連携しJAを主体に定期的に地域の話合いを実施

花巻市、花巻農業振興公社、農業推進協議会が連携し、**JAを主体にチームとして定期的に地域の話合いを実施**し、プランの見直し、農地集積を推進。

### 農地中間管理事業に係る地域検討会、農業者説明会、意向確認を実施

平成26年6月のプラン見直し時に、**農地中間管理事業に係る地域検討会を開催し、その後JA各支店及び農家組合単位の農業者説明会を実施**。集落毎の「集落営農ビジョン」の見直しの**話し合いと併せて受け手の機構活用の意向確認を実施**し、プランに反映させた。

### 公社が中心となって農地の受け手、出し手のマッチングを推進

花巻農業振興公社が中心となって、**地域の話合いの場や個別相談により把握した情報**により、プランの**出し手、受け手をはじめとする賃貸借の要望を収集**し、平成26年度に約190ha、平成27年度までに**約580haの農地で機構が活用**された。



刈取り後の圃場  
(花巻市宮野目地区)